

2020年度

環境経営レポート



対象期間:2020年5月1日～2021年4月30日

2021年6月25日 発行

 株式会社 **広田製作所**

～目次～

表紙	P1
目次	P2
1 組織の概要及び対象範囲 (1)事業所名・所在地・連絡先 (2)環境保全関係の責任者 (3)事業内容及び認証登録範囲 (4)事業規模 (5)環境保全関連業務の役割	P3
2 環境経営方針	P4
3 環境経営目標	P5
4 環境経営目標の実績	P6
5 環境活動計画の取組結果とその評価及び 次年度の取組内容	P9
6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P11
7 代表者による全体評価と見直しの記録・指示 結果	P11

1 ～組織の概要及び対象範囲～

(1)事業所名・所在地・連絡先

・事業所名 株式会社 広田製作所
 ・所在地・連絡先 〒382-0005 長野県須坂市大字小河原3954番地-13
 Tel 026-245-1212(代)/026-248-0800(代)
 Fax 026-248-2947 / 026-246-1474

(2)環境保全関係の責任者

・最高責任者 代表取締役社長 広田 文雄
 ・環境管理責任者 執行役員品質保証部長 酒井 直樹

(3)事業内容及び認証登録範囲

電子デバイス、ハードディスク試験装置、各種電子機器、メカトロニクス機器の設計及び製造

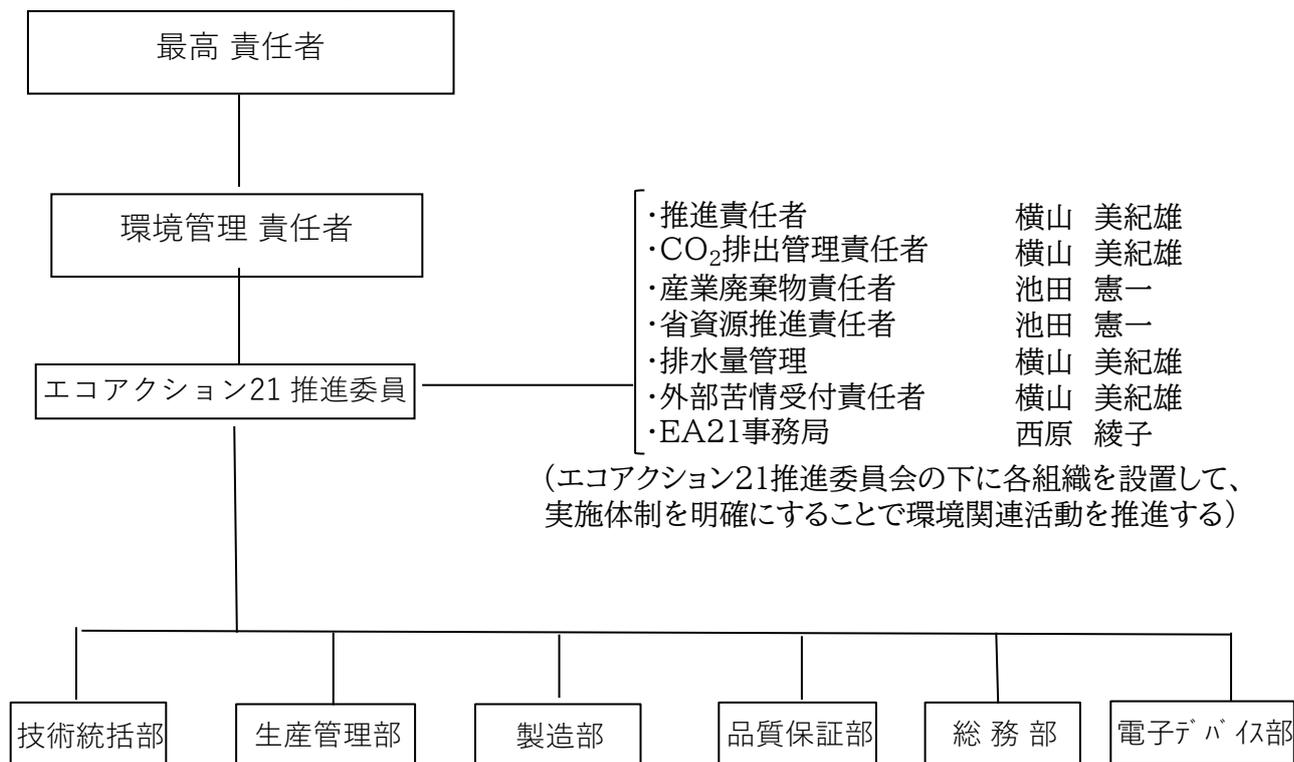
(4)事業規模

工場	売上額 (2020年度)	従業員数	対象組織	延床面積
		～2021.4.30		
工場棟	18億2千3百万円	53名	52名	1,869㎡
技術棟		31名	29名	277㎡
実験棟				113㎡
顧客先		43名	0名	-
全体		126名	81名	2,259㎡

注)非対象従業員は顧客先の職場で就業

(5)環境保全関連業務の役割の明確化(2020年度)

以下にエコアクション21推進委員会組織を設置し、環境関連活動を計画・推進する。



2～環境経営方針～

環境経営方針

理 念

㈱広田製作所は、情報機器の提供メーカーとして、社会の持続可能な発展に向けた環境への取り組みが経営上の重要課題と認識し、信州の豊かな自然を次の世代に残すことを目指して、全ての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを継続して追求して行きます。

基本方針

1. 環境問題への取り組み

企業活動のあらゆる面で、環境との調和を図っていくため、社内の全部門はもとより、広く関係先と協力して、環境保全に配慮した商品や技術の開発を推進します。

また、社員一人ひとりが生物多様性保全を始めとした環境保全活動に貢献するよう啓発を行い、生物に与える影響を最小限に抑えます。

2. 企業責任の遂行

設計・開発から、生産、販売、製品搬送等の全ての段階において、環境汚染の未然防止に努め、省資源・省エネルギー型の製品設計を行い、環境への負荷低減に取り組みます。また、企業活動に伴う環境負荷を把握し削減する為に、下記項目について環境目標等を定めて取り組みます。

- ・ 環境に配慮した製品を設計・製造する
- ・ グリーン購入の推進
- ・ 二酸化炭素排出量の削減（購入電力・ガソリン・灯油使用量の削減）
- ・ 廃棄物処分量の削減
- ・ 水資源利用量の削減

3. 関連法令の遵守

事業活動に適用される環境法、自主基準及び当社が同意するその他の要求書を遵守します。

4. 環境マネジメントシステムの継続的改善

環境マネジメントシステムを継続的に改善するとともに、汚染を予防します。

2018年7月5日

株式会社広田製作所

代表取締役社長

広田文雄

3 ～ 環境経営目標 ～

1. 製品・サービスに関する環境目標

目標： 環境に配慮した製品を設計・製造する

2. グリーン購入の推進

目標： 環境に配慮された部品、事務用品を積極的に購入する

3. 二酸化炭素排出量削減(エネルギー消費量削減)

- ① 電気使用量目標： 20年度年間実績値より年率0.1%以上削減を目標とする
- ② ガソリン・軽油目標： 20年度年間合計実績値より年率0.1%以上削減を目標とする
- ③ 灯油・ガス目標： 20年度年間合計実績値より年率0.1%以上削減を目標とする

《会社目標》		20年度 実績	21年度 目標	22年度	23年度
項目	単位				
電気使用量	kg-CO ₂	65,355	65,290	65,225	65,159
ガソリン	kg-CO ₂	4,677	4,672	4,668	4,663
軽油	kg-CO ₂	1,257	1,256	1,255	1,253
灯油	kg-CO ₂	10,744	10,734	10,723	10,712
ガス	kg-CO ₂	1,765	1,763	1,761	1,759
CO2排出量総合計	kg-CO ₂	83,799	83,715	83,631	83,547

(調整後排出係数：0.480 H28年度中部電力実績)

《エネルギー使用量目標》		20年度 実績	21年度 目標	22年度	23年度
項目	単位				
電気使用量	kWh	136,157	136,021	135,885	135,749
ガソリン	ℓ	2,016	2,014	2,012	2,010
軽油	ℓ	487	487	486	486
灯油	ℓ	4,315	4,311	4,306	4,302
ガス使用量	m ³	817	816.2	815.4	814.5

4. 産業廃棄物処分量の削減

- ① 目標： 廃棄プラスチック類 20年度年間実績より年率0.1%以上削減を目標とする
- ② 目標： 可燃ごみ 20年度年間実績より年率0.1%以上削減を目標とする

《会社目標》		20年度 実績	21年度 目標	22年度	23年度
項目	単位				
廃棄プラスチック	kg	1,230	1,229	1,228	1,226
可燃ごみ	kg	1,280	1,279	1,277	1,276

5. 水資源利用量の削減

- ① 目標： 20年度年間実績より年率0.1%以上削減を目標とする

《会社目標》		20年度 実績	21年度 目標	22年度	23年度
項目	単位				
水資源利用量	m ³	368	367.6	367.3	366.9

4 ～環境経営目標の実績～

資源使用量ならびに廃棄物排出量

～CO₂排出量～

エネルギー使用量 実績		19年度 実績	20年度	20年度	目標比 (増減率)
項目	単位	基準値	目標値	実績値	増減率
電気使用量	kg-CO ₂	56,160	56,104	65,355	16.5%
ガソリン	kg-CO ₂	8,162	8,152	4,677	-42.6%
軽油	kg-CO ₂	2,018	2,015	1,257	-37.6%
灯油	kg-CO ₂	5,578	5,573	10,744	92.8%
都市ガス	kg-CO ₂	1,238	1,236	1,765	42.7%
CO ₂ 排出量合計	kg-CO ₂	73,155	73,081	83,799	14.7%

(調整後排出係数:0.480 H28年度中部電力実績)

エネルギー消費量 実績		19年度 実績	20年度	20年度	
項目	単位	基準値	目標値	実績値	
電気使用量	kWh	117,001	116,884	136,157	※注1
ガソリン	ℓ	3,518	3,514	2,016	
軽油	ℓ	782	781	487	
灯油	ℓ	2,240	2,238	4,315	
都市ガス	m ³	573.0	572.4	817	

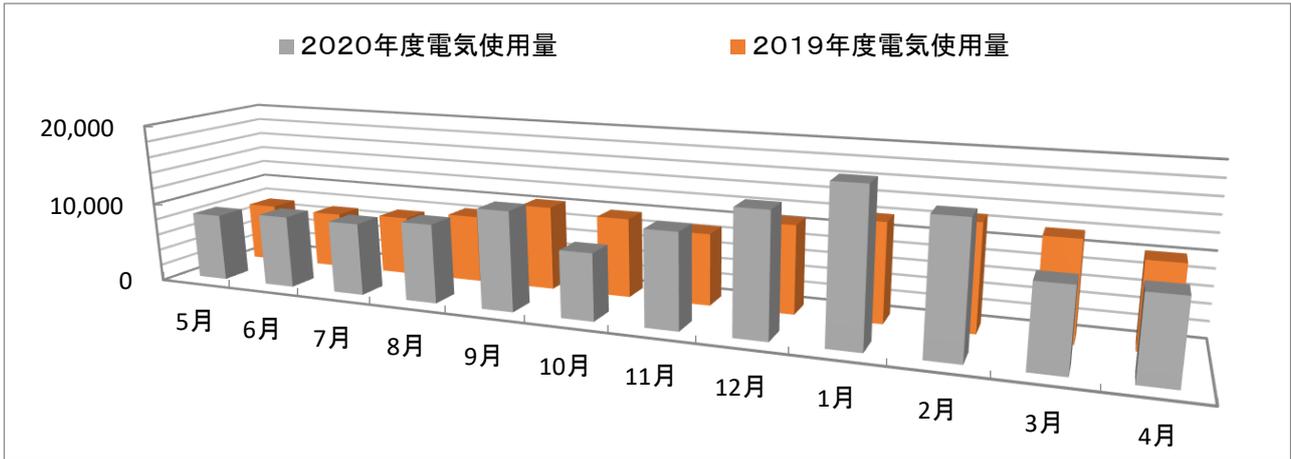
※注1) 電気使用量には、太陽光発電使用量は含まれておりません。

産業廃棄物等排出量 実績		19年度 実績	20年度	20年度	目標比 (増減率)
項目	単位	基準値	目標値	実績値	増減率
廃棄プラスチック	kg	1,350	1,349.0	1,230	-8.8%
可燃ごみ	kg	810	809.0	1,280	58.2%
金属クズ	kg	-	-	-	*
ダンボール	kg	-	-	-	*
紙類	kg	-	-	-	*
廃棄物処分量合計	kg	2,160	2,158	2,510	

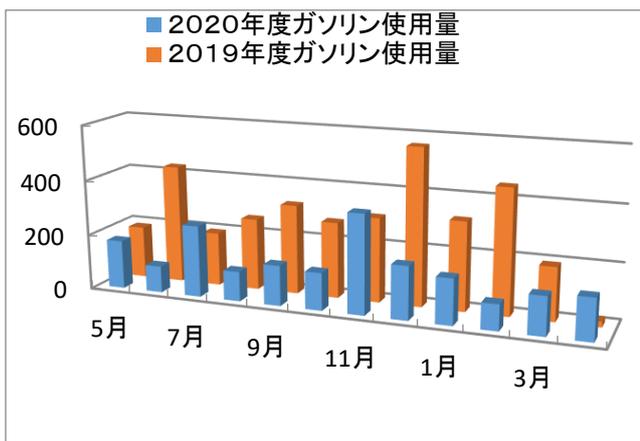
*資源利用されています

水使用量 実績		19年度 実績	20年度	20年度	目標比 (増減率)
項目	単位	基準値	目標値	実績値	増減率
上下水道	m ³	368	368	368	0.0%

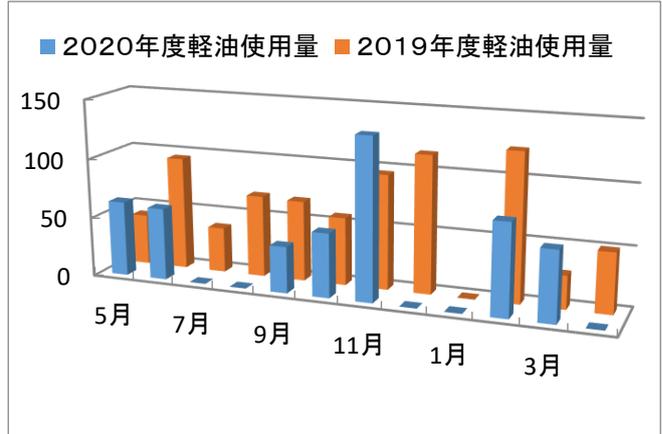
*電気使用量 (kWh)



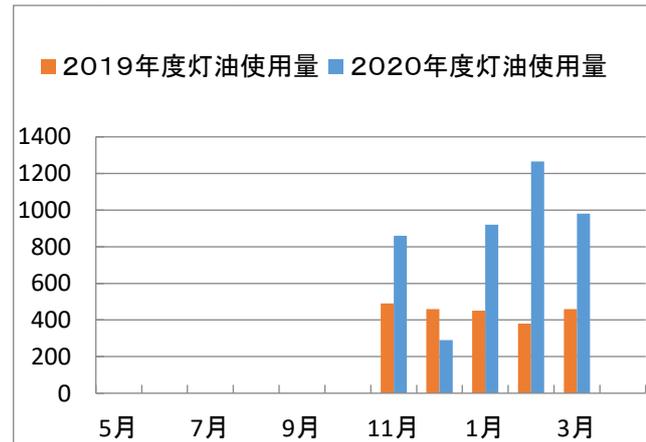
*ガソリン使用量 (ℓ)



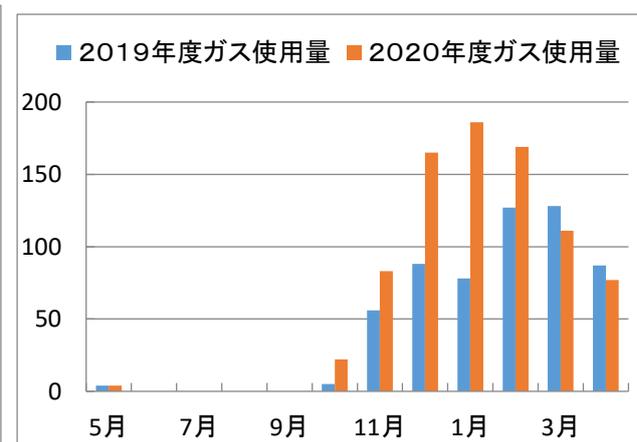
*軽油使用量 (ℓ)



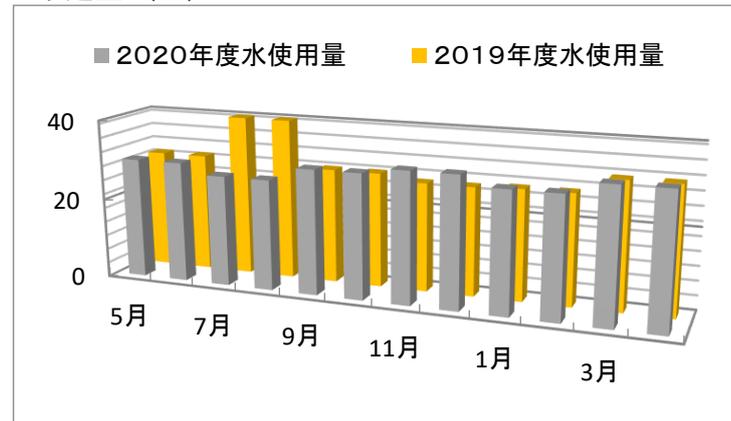
*灯油使用量 (ℓ)



*ガス使用量 (m³)

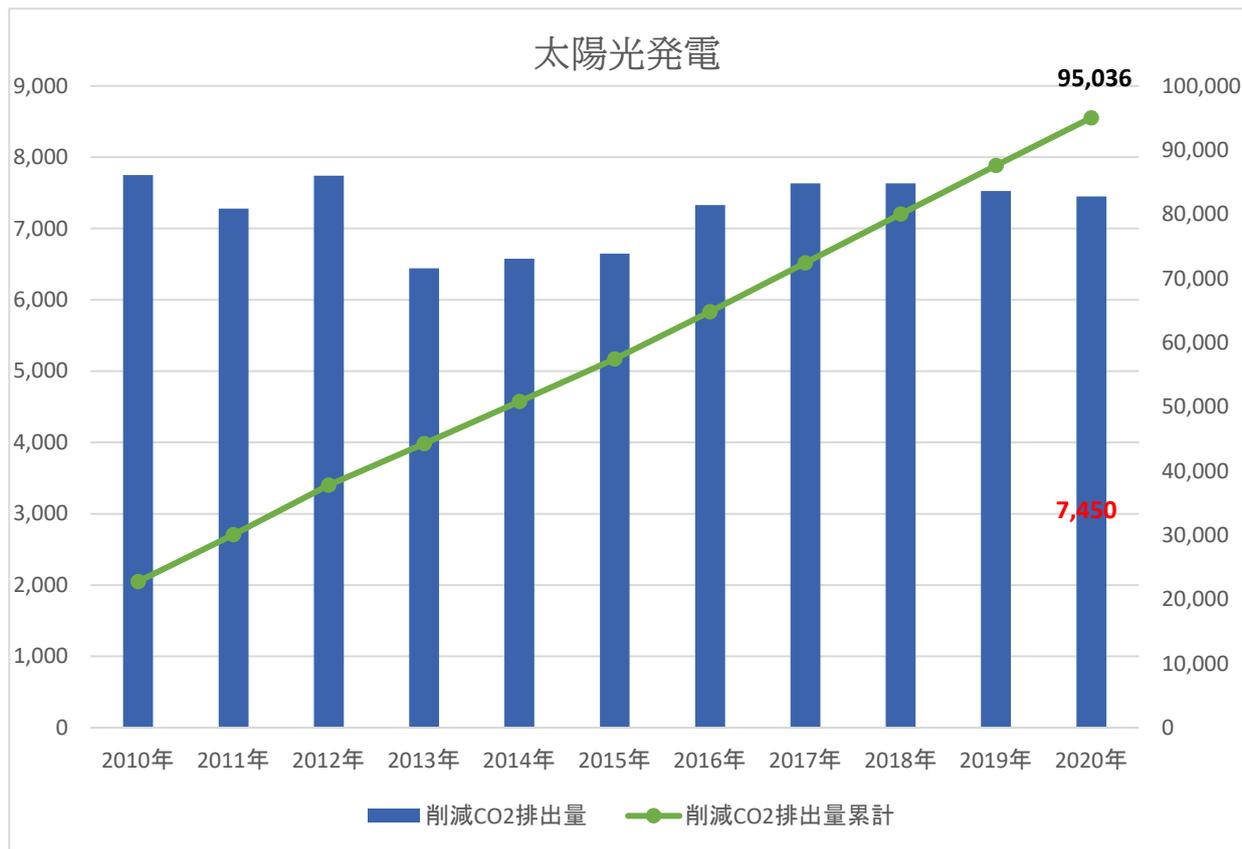


*水道量 (m³)



【太陽光発電について】

当社では2007年12月より太陽光発電を導入をしており、太陽の光エネルギーを電力に変えて使用し、温室効果ガス排出量の削減を実施しております。



2020年度の太陽光発電使用量は **【15,540kWh】** でした
購入電力に換算すると **【7,450kg-CO₂】** 削減出来たこととなります

また、総使用量累計 **【19,287kWh】** に対して
総排出量累計は **【95,036kg-CO₂】** 削減出来たこととなります



5 ～環境活動計画の取組結果とその評価及び次年度の取組内容～

NO.	【重点活動項目】／施策	目標値	実績	実行責任者	実績評価
1	【グリーン購入の推進】 (1)環境ラベル認定の事務用品、環境に配慮された製品を購入 (2)環境活動を行っている企業から購入	1.購入率78%以上を維持 2.取引先の増加	環境に配慮された製品の購入を進めた	藤澤部長	環境に配慮された製品を積極的に購入できている。今後も維持していく。
2	【環境に配慮した製品の設計・製造】 (1)RoHS対応製品等の設計・製造 (2)エコ設計の推進	社内各部門が連携し情報共有を行ない情報を有効に活用する	製品の設計・製造	市村副社長 高野部長	顧客要望もあり対応製品を製造した。
3	【CO2排出量の削減】 「電力削減」 (1)空調温度夏期設定 27℃±1℃ (2)空調温度冬期設定 19℃±1℃ (3)不要電力の削減 ①休み時間の消灯 ②必要箇所のみの点灯・空調等 ③必要時間のみの装置移動(PC等を含む) ④電力デマンド監視システムによる監視 ⑤空調設備を一部停止し扇風機を利用 ⑥会議室、受付のLED照明の設置 (4)クールビズの推進 (5)太陽熱の遮断 ① 会議室のカテン、緑のカテン、よしずの利用 「燃料削減」 (1)社有車の燃費効率向上 ①エコカーの導入（現在9台中5台） ②構内停車時のアイドリングストップ ③省エネ運転の推進 ④効率よく出張できるように計画する (2)灯油使用量の削減 ① 設定温度に達したら過剰暖房をしない (3)ガス使用量の削減 ①ガス使用時間短縮 ②ガス暖房の設定温度を過剰しない	電力 目標:56,104kg-CO ₂	増減率▲16.5% 65,355 kg-CO ₂	横山常務	実験棟の増設及び国内製造予定外の大型試験機20台以上の組立ランゲージにより電力使用量は増加した。
		ガソリン 目標:8,154kg-CO ₂	増減率▽42.6% 4,677 kg-CO ₂		
		軽油 目標:2,016kg-CO ₂	増減率▽37.6% 1,257 kg-CO ₂		灯油・ガスについては実験棟の増設に伴いファンヒーターが増設されたことから使用量は増加した。
		灯油 目標:5,572kg-CO ₂	増減率▲92.8% 10,744 kg-CO ₂		
		ガス 目標:1,236kg-CO ₂	増減率▲42.7% 1,765 kg-CO ₂		
		増減率▲58.2% 1,280 kg			
4	【廃棄物排出量の削減】 (1) 廃プラスチック類の削減 ① 調達品・支給品包装の3R化の推進 (3R:リサイクル、リユース、リデュース) ② 通い箱等への変更 (リピート性の高いもの) (2) 可燃ゴミの削減 ① 分別方法・集積場所の整備 (廃棄サンプル、看板の強化) ② 分別による再利用・資源化の徹底 金属クズ、ダンボール、紙類は再資源として搬出する	廃プラスチック 目標:1,349kg以下	増減率▽8.8% 1,230kg	藤澤部長 池田課長	廃プラスチックについては業務上大きな排出はなかった。支給品包装3Rかにて若干の削減となった。 可燃ゴミは2020年度内に溶解資料を排出したことにより目標を大きく上回ったが書類のデータ化などでペーパーレス化による効果は出ている
		可燃ゴミ 目標:809kg以下	増減率▲58.2% 1,280 kg		
5	【水使用量の削減】 (1)節水 ①手洗い時の洗面器利用の徹底 ②こまめに蛇口の開閉を行う。 ③水洗トイレタンクの水量制限 ④ポスター掲示等の啓蒙活動	目標: 368 m ³	増減率±0% 368 m ³	池田課長	各節水対策の効果が有り目標レベルを維持できている。毎月の水道メーター定期確認も節水対策となるため引き続き取り組んでいく
6	【EA21を通じて環境への対応の啓蒙】 (1)EA21の理解を深める (2)産業廃棄物の削減および分別の徹底	1.新規入職者への教育を行い理解を深める	新規、中途入職者へ教育実施	環境管理責任者	入職時、社内規定等の説明過程にて教育している。

【今後の取組内容】

～1.環境に配慮した製品の設計・製造～

- 1)受託開発品・自社製品の設計については、引き続き環境に配慮した省エネ設計、RoHS対応 REACH規制等に対応した開発を行う。
- 2)社内各部門が連携し情報共有を行い、情報を有効に活用する。
環境に配慮すると共に、顧客ニーズに沿った設計、開発を行う。



～2.グリーン購入の推進～

- 1)今後も継続して意識付け、データ収集を行う。
- 2)新規取引先の環境活動を確認し、グリーン購入を推進する。

～3.CO₂排出量の削減～

- 1)電力の使用量については、最大需要電力(デマンド値)監視システムにより最大需要電力を抑制し削減を図る活動を継続して行う。(最大需要電力/66kW)
- 2)エアコンについては必要なエリアのみ使用する。
夏季は扇風機/冬季は灯油ストーブを併用することで削減を推進する。
エアコンは設定時間になると自動で切れるシステムを導入 (17:00)
空調温度を夏期冬期設定し、掲示する。 夏季/27℃±1℃ 冬季/19℃±1℃
- 3)コンプレッサー等設備使用については、使用する時に電源を入れ、待機電力を削減する。
- 4)ガソリン・軽油については、効率のよい出張計画、省エネ運転推進を継続して行うことで削減する。
- 5)灯油については、暖房温度に到達したら過剰暖房を止め削減を図る。
- 6)今後、蛍光灯等はLEDにしていくこととする。



～4.廃棄物排出量の削減～

- 1)支給品や遠地調達品の梱包材等、持ち帰り交渉が出来ない廃棄物が出る限り、リユースを行い削減を図る。
- 2)可燃ゴミについては、電子データによるペーパーレス化や名刺サイズ以上の紙は再生紙として分別することを継続し、再資源化教育の推進により、ゴミの仕分けを徹底して行う。
- 3)持ち込みゴミは、各自で持ち帰るように徹底する。

～5.水使用量の削減～

- 1)節水活動を継続して行い、使用量削減を行う。



6 ～環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無～

(1)適用される環境関連法規制

当社の事業活動に適用される環境関連法規等は、次の通りです。

関連法	要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般及び産業廃棄物の保管、運搬・処分の委託、マニフェスト管理	遵守
消防法	少量危険物の貯蔵管理と取扱、届出(灯油)	遵守
フロン排出抑制法	3ヶ月毎簡易点検	遵守

(2)環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社ではEA21推進委員会が適切に監視しており、環境関連法規への違反はありません。また、現在および過去10年間、問題の無いことを確認致しました。同様に関係機関および近隣住民などからの苦情、指摘、訴訟などは有りませんでした。

内容	過去10年間の結果
法律違反の有無	無
訴訟等の有無	無

7 ～代表者による全体評価と見直しの記録・指示 結果～

マネジメントレビューのインプット報告を受けて、環境マネジメントシステムは有効に機能していると判断する。

これまでの長いエコアクションの活動によりCO₂削減に向けた取組は十分に機能しているが、今期は実験棟の増設及びコロナによる国外製造不能分の大型試験機が多数発生し、国内生産となったことから、前年比一部指標は悪化した。

しかしながらSDG₅推進企業としてハード面(エコカーの導入、蛍光灯のLED化、太陽光発電等)も積極的に推進している。

今後とも社員が引き続き日々の活動の中で、社会貢献・環境活動に積極的に取り組むことで、会社の環境目標を達成していく。